

2012年7月31日

東京ガス株式会社

2013年3月期 第1四半期 決算説明会

主なQ & A

Q 1 : 業績見通しの利益水準を上方修正しているが、その理由は何か？

A 1 : 通期見通しにおいて利益が増加する要因は大きく分けて2つある。一つ目は、原油価格の下落、円高によるスライドタイムラグの大幅な改善。このスライドタイムラグの改善に加え、ガス販売量の増加も寄与し、ガス粗利が当初計画より315億円増加する見通しに修正している。2つ目は、電力やLNG販売の収支改善を反映し、営業雑収支・附帯収支で71億円増加する見通しとした。これらにより、当初計画に対して、経常利益が420億円増加する見通しとした。

Q 2 : 第2四半期以降のガス販売量をどのように見通しているか？震災後の節約行動、省エネ行動について、どのように分析しているか？

A 2 : 家庭用・業務用については、第1四半期の増加分のみを当初計画に対し上積みした。したがって、第2四半期以降については当初計画を変えていない。節約行動、省エネ行動については今後の動向が見通せないのが、その理由だ。工業用については、一般工業用については当初の景気上振れ見込み想定を下方修正した一方、発電専用については現在の状況を踏まえ、第2四半期以降も当初計画を上方修正している。

Q 3 : 電力事業の見通しを聞きたい。

A 3 : 第1四半期については、販売量、単価増により当初計画より利益増となった。現在の傾向がしばらくは継続するものと考え、第2四半期までの見通しは上方修正したものだ。一方、第3四半期以降については現時点で詳細に見通すことが困難であるため、当初計画どおりとしている。

Q 4 : 海外子会社からの配当金について、わかりやすく教えて欲しい。

A 4 : 海外子会社から東京ガスの配当金に関して、そもそも親子間の配当は連結消去の対象となる。連結決算ベースで見ると、第1四半期の実績、及び上期・通期見通しの特別利益に計上されている35億円のみが連結相殺後のPLに計上され、それ以外は原則として消去されていると考えていただきたい。